

## 第4回肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会 議事概要

1 日時 令和7年6月20日（金）14:00-14:55

2 場所 八代グランドホテル（熊本県八代市）

3 出席者

出席者名簿のとおり

### 4 会議の内容

（報告）（1） 肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会規約の改正について

（2） 第3回肥薩おれんじ鉄道未来戦略検討委員会幹事会について

（議事） 第1号 令和6年度収支決算（案）について

第2号 令和7年度収支予算（案）について

第3号 肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通計画（案）について

第4号 肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通計画（案）に基づく令和7年度実施予定の施策（案）について

### 【出された主な意見】

#### 「肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通計画（案）について」

（熊本県社会福祉協議会）

パブリック・コメントでは駅の跨線橋の撤去・バリアフリー化についての意見が出ている。高齢の方や体が不自由な方など階段の上り下りが上手い人々もいる。そのような方々への配慮がどのように計画案に反映されているかについてご教示いただきたい。

計画案の基本方針9「マイレール意識の醸成」、施策9-1「肥薩おれんじ鉄道の利用促進」の取組④では高齢者への配慮についての記載があるが、利用方法の周知や利用促進が主な内容である。肥薩おれんじ鉄道が発足した当時は障害者の権利に関する条例の批准は行われておらず、また障害者基本法の改正も行われていなかった時期。高齢の方や障がいのある方への配慮が法制化されてから既に10年が経過している。この点はもう少し踏み込んだ記載がほしかった。現在、社会づくり、地域づくりの上では「共生社会」や「障がいのある人もない人も共に暮らしていく地域社会」というのがキーワードになっている。

今後の肥薩おれんじ鉄道の経営のあり方としてもこのような考え方をどこかに位置づけてほしい。

(会長)

バリアフリーは非常に重要な視点と考えている。

計画案の基本方針3「利用しやすいサービス・施設の実現」、施策3-2「駅の施設・設備等の改善による利便性の向上」、取組②では高齢者や子ども連れに配慮したバリアフリー対応として、列車が到着する番線の駅舎側への変更についての記載を入れているが、記載内容の一部変更を検討したい。

跨線橋の撤去は厳しい部分もあるので、番線変更などできる限りの対応を検討させていただく。

(熊本県社会福祉協議会)

これまでも十分な検討をされてきたと思うので、相談いただき、良い方向になればありがたい。

(大井教授)

計画(案)の基本方針7「安全・安定輸送を確保するための施設・設備の整備」、施策7-1「老朽化設備の更新・機能向上」の取組④は、老朽化が進む駅の耐震化の検討・整備を行う旨の記載であるが、耐震化に限定せず、「老朽化が進む駅舎・駅施設の改修の検討・整備を行う」との記載に変更してみてもどうか。

跨線橋も年数が経過すると架替えに多額の費用を要する。道路の歩道橋も改修のコストが掛かるので、敢えて撤去の上、横断歩道化する動きもある。

(肥薩おれんじ鉄道)

弊社のウィークポイントとなってるところに対する提案であり大変ありがたい。駅舎だけだと確かに対象が狭いなという印象もあったので、幅広く検討する上では、駅舎・駅施設として頂いた方が良いのかなと思う。

(事務局)

御意見も踏まえて、基本方針7「安全・安定輸送を確保するための施設・設備の整備」、施策7-1「老朽化設備の更新・機能向上」の取組④については、「老朽化が進む駅舎・駅施設の改修の検討・整備を行う」に変更したい。

併せて、説明文も「駅舎が築100年を経過するなど老朽化が進行していることから、耐震化等の検討・整備を行う」に変更したい。

また、基本方針3「利用しやすいサービス・施設の実現」、施策3-2「駅の施設・設備等の改善による利便性の向上」、取組②の説明文については「高齢者や子ども連れ、障がいのある方々に配慮したバリアフリー対応を進める（列車が到着する番線の駅舎側への変更など）」に変更したい。

JR鹿児島本線市来駅など跨線橋を撤去して構内踏切化した事例も承知しているが、お金が掛かる話でもある。現行の肥薩おれんじ鉄道のダイヤでも可能な限り駅舎側のホームに発着番線を寄せてはいるが、まずは運用改善で対応できることはしっかりと取組むといった表現にさせていただきたい。

（会長）

それでは以上の修正を加えた上で、肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通計画を策定させていただきたいと思う。御意見についてお礼申し上げる。

### 「令和7年度実施予定の施策（案）について」

（肥薩おれんじ鉄道）

本日をもって、沿線地域公共交通計画が成案ということになるが、弊社では、今年度の実施策について先取りする形で既に取り組を進めているところ。とりわけ重点施策として掲載している運転士の確保は、最重要課題の一つと考えており、4月以降重点的に取組を進めているところ。

また基本方針5「訪れたくなる仕掛け・地域づくり」、施策5-1「沿線と一体となった地域資源の磨き上げ・PR」も積極的に展開を進めている。このように、弊社においては、沿線地域公共交通計画に基づきしっかりと取組んでいくので引続きよろしくお願いしたい。

（大井教授）

ここにいる方々の1年間の熱心な議論のお陰でここまでたどり着けた。

素案を策定した際にも、皆様にお伝えしたが、計画は作って終わりではなく、作ってからがむしろ大変。計画を実行していくという重い責任を我々は課されている。取組施策の中には準備に時間がかかるものも散見され、幹事会（オンラインミーティング）など施策を詰める時間を多くとらないといけないのかなと感じている。ワークショップも手伝いをさせていただきたいが、そんなにすぐできるものではない。特に人を集める上では、鉄道好きな方ばかりが集まるワークショップでは意味がない。地元の方々に真剣に議論していただくところに特化をしないといけないのでここにいる沿線市町の皆様や教育委員会の協力が必要。少しスピード感を持ってやらないといけない。

(九州運輸局)

自治体まちづくり計画等における肥薩おれんじ鉄道の関連性記載についてであるが、これは鉄道事業再構築実施計画にも載せる必要があるが、現状の手続きとしては再構築実施計画の認定申請時には、変更後の内容を記載していただく必要がある。その点については自治体まちづくり計画等の改正スケジュールが少し前倒しになってくるので、各沿線市町においてはご留意の上、対応を進めていただきたい。

以 上